



慈林小だより



令和6年度6月号 令和6年5月31日

5月の体験学習から ～大貫海浜学園・南極教室～

校長 鈴木真由美

5月9日・10日で実施した5年生の大貫海浜学園は、始業式から一ヶ月後というハードスケジュールでした。そのような中でも、子供たちは、新しいクラスの仲間たちと共に事前の準備や現地での集団生活によく頑張りました。おかげさまで天候にも恵まれ、計画していた活動をすべて実施することができました。2日目のハイキングでは、大貫の浜辺から対岸の三浦半島や霊峰富士を眺めながら海風を感じて歩き、時には貝殻拾いを楽しみ、よい思い出となりました。子供たちは1泊2日の宿泊学習を通して協力を学び、家族や友だちへの感謝の思いを深め、今後の学校生活の目標を立てることができました。

<子供たちの感想から>

- ・キャンドルファイヤーが一番心に残りました。しょうらい、どんな人になりたいかを言い、ろうそくを消して、がんばろうという気持ちになりました。
- ・一番大変だったのは、お母さんの手をかりずに自分で何もかもやらないといけなかったことです。(中略) こまったことがあったら、ほんの人が助けてくれたので、協力するって大事なんだと学ぶことができました。
- ・川口にはない海に行って、そこだからできる遊びやおみやげを持って帰ることができ、楽しかったです。
- ・5年生は、大貫だけでなく他にもたくさんの行事があるので、たくさん楽しんで学んでいきたいです。

5月22日(水)の6校時には、学校の体育館と南極・昭和基地をオンラインで繋ぎ、4・5・6年生を対象に「南極教室」を実施しました。「南極教室」は極地研が主催している事業で、学校と南極・昭和基地を衛星回線で繋ぎ、双方向ライブ中継を行うものです。

「南極教室」の担当となった小笠原隊員は事前学習から熱心に関わってくださり、子供たちが南極の自然や基地での生活に興味をもって学習に臨めるように準備してくださいました。子供たちに日本から14,000kmも離れた基地での生活が少しでも伝わるよう、慈林小の子供たちが目指している「あいさついっぱい 元気いっぱい やさしさいっぱい 学びいっぱい」と基地での生活を関連付けて質問したり説明したりしてくださいました。小笠原隊員のおかげで、子供たちは「自分たちが学校生活で頑張っていることは、昭和基地でも大切なことなのだ」と、気づくことができました。その他にも、子供たちの質問に動画を交えながら具体的に分かりやすく答えてくださり、子供たちにとって遠い世界だった南極が少し身近になったようです。驚きと発見に満ちた「南極教室」は、子供たちの心に残る充実した時間となりました。今回の南極教室に際して、多くの方々にご協力をいただきました。貴重な機会を与えてくださった本校児童のご親族様、ご協力いただいた極地研や昭和基地の担当者の皆様に衷心より厚く御礼申し上げます。

子供たちにとって様々な体験や経験は最高の学習です。今年度も、本校は体験活動を通して子供たちの興味・関心や知的好奇心を高め、学習意欲に繋げてまいります。未来に向かってたくましく成長していく子供たちを学校・家庭・地域で共に見守っていきけるよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

※学校だよりは、今月号から保護者の皆様にはメールで配付します。スマートフォン等の端末で見やすいよう、文字を大きくしました。先月号まで学校だよりの表面に掲載していた行事予定は、学年だよりでご確認ください。